

人工腎臓部看護方針

- **患者中心であること**

透析についての知識・情報を提供し、患者さんが十分理解したうえで意志決定、体調の自己管理ができるよう支援する

- **安全であること**

透析療法が安全に行われるよう指示を確実に実施する
患者の全身状態をモニターし、障害の発生を予防する

- **効果的であること**

効果的で根拠のある看護サービスを提供する
自らも研究的姿勢を持ち、根拠を明らかにするための活動を行う

- **適時性があること**

腎不全急性期・保存期・導入期・維持期の各期に必要な看護サービスの提供を行う

- **効率的であること**

患者情報を医療チームで共有し、効率的な透析を実施する

- **公平であること**

透析が各診療科で標準化されるよう、
病棟・外来医師や看護師と連携し、看護サービスを公平に提供する

透析医療の特徴

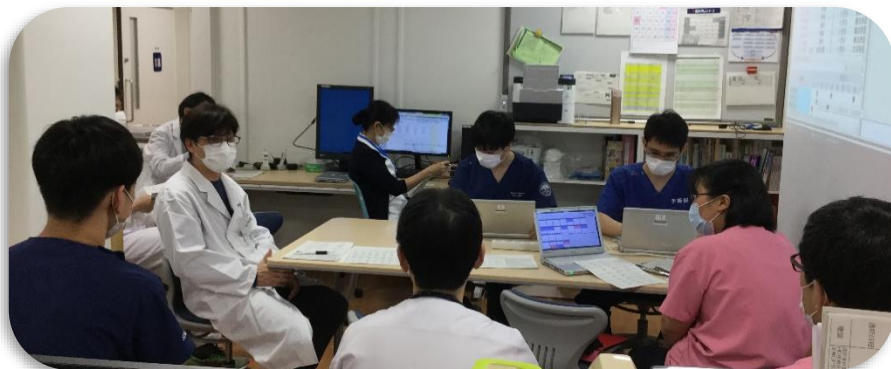
患者さんと共に考える透析生活

透析導入・・・血液透析を始める患者さんに対し、
理解・納得した上で透析を受け入れられるように支援します

維持透析・・・透析治療を続けていく上で、
自己管理能力アップのための方法を患者さんと一緒に考えます

人工腎臓部と腎臓内科病棟との連携

患者さんがより良い透析治療を受けられるように、毎月ミーティングを行っています



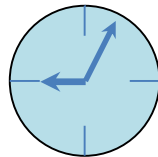
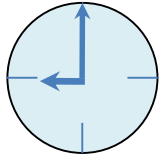
カンファレンスの風景



朝の多職種ミーティング

血液透析の流れ

患者さんに撮影許可をいただいています



透析開始前の体重測定

* 当院ではスケールベッドで測定



シャント音を確認後

17G の太い針で穿刺

* 採血場合：22~23G

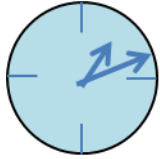
透析回路を接続して透析開始



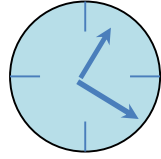
4時間の透析中

状態が落ち着いていれば座位も可能

TVを観たり、読書したりして過ごします



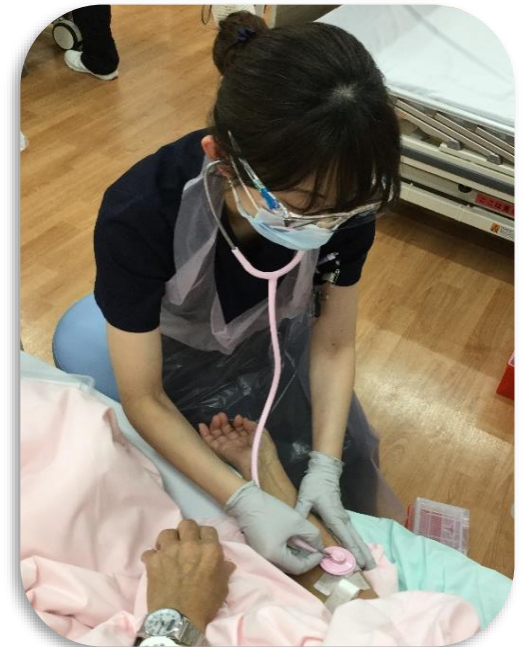
透析終了



抜針・止血

シャント血管は動脈と静脈を
吻合しているため
止血には10分程度要します

シャントの閉塞がないか
音を聞いて確認



患者さんは、水分、塩分、食事制限をしながら、
1週間に3回、1回につき基本4時間の透析を受けます

腹膜透析外来

- ・腹膜透析を始める患者さんに対して、
自己管理や社会復帰への指導、精神的な援助を病棟看護師と協力して行っています
- ・通院患者さんには、
自己管理状況の確認を行い、継続していくための問題点解決の援助を行っています



腎臓病教室：奇数月、第2・3・4火曜日、14時00分～

- ・慢性腎不全保存期の患者さんと家族・介護者を対象に開催
- ・自分の病気や治療、生活していく上でどのようなことに気をつけたらよいかを学習
- ・講師：人工腎臓部看護師、腎臓内科医師、管理栄養士、社会福祉士

慢性腎不全は経過が長いため、適切な自己管理をしていくことが大切です

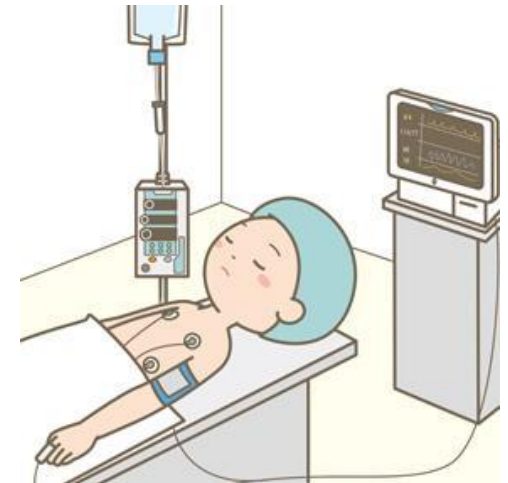
教室に参加して知識を深めてもらうと共に、日常生活で困っていることや病気のこと、透析導入への思いなどの話を聞き、不安の軽減に努めています



腎代替療法選択外来

腎不全が進行し、
腎代替療法を始める時期が近づいてきた患者さんや家族を対象に
血液透析・腹膜透析・腎移植についてお話しします

患者さん一人一人の生活環境や習慣、好み、思いを
医師をはじめとした医療スタッフと共有し、その方が最も納得される
最善の治療法を一緒に考えます



* 透析患者の推移

- 2021年末全国の慢性透析患者数
349.700人
- 透析導入時平均年齢 **71.09歳** (2021年)
- 透析導入の原因疾患

第1位 糖尿病性腎症

第2位 慢性糸球体腎炎

第3位 腎硬化症

日本透析医学会HP(2020年末の慢性透析患者に関する集計)より

<https://docs.jsdt.or.jp/overview/>

- 2021年度の当院人工腎臓部での
導入患者数 **51人**
受入れ患者のべ数 **3664人**

その他の治療（一部）

G-CAP療法（白血球除去）

潰瘍性大腸炎などの治療



血漿交換法（PE）

血液型不適合臓器移植や免疫・膠原病疾患など



LDL吸着

悪玉コレステロールとして知られる、LDLを取り除く

DFPP（二重膜濾過法）

血漿交換と同様の方法で分離した血漿から、病因関連物質を選択的に取り除く

* 血液がんの最新治療

『CAR-T細胞療法』

2019年に承認された血液がんの最新治療です。

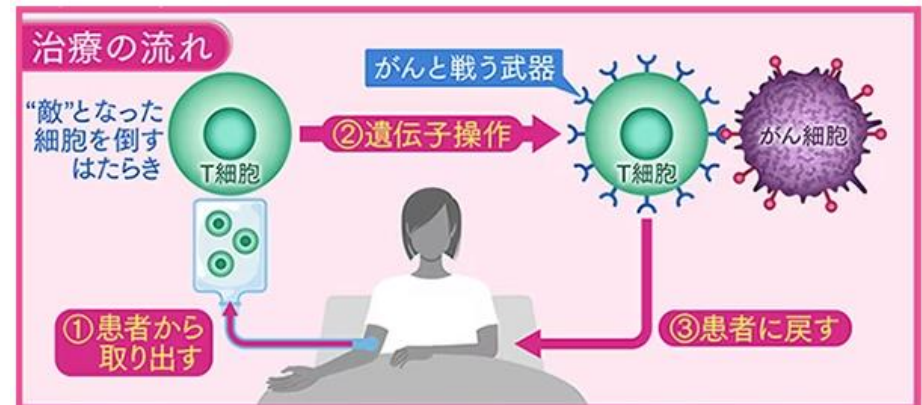
血液がんには、白血病や悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などがあります。

抗がん剤、放射線などの標準的な治療が行われますが、こうした治療に効果がなかった場合や再発した場合に、CAR-T細胞療法が行われることがあります。

CAR-T細胞療法は、患者さん自身が持っている免疫細胞の一種、T細胞を血液から採取して、がんと戦うように強化して体に戻すという高度な治療法です。

引用：NHK健康チャンネル https://www.nhk.or.jp/kenko/atc_1432.html

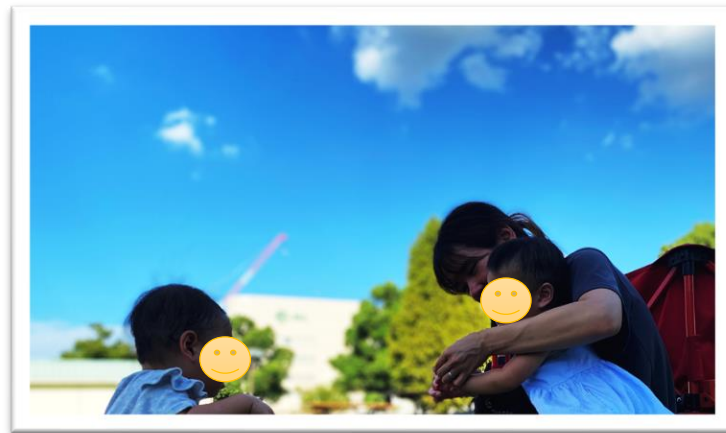
当院人工腎臓部では、
このCAR-T細胞療法における第1段階
患者さんのT細胞採取を行っています



職員紹介

- K さん
- 2016年度入職、整形外科病棟配属。産前休暇・育児休暇取得後に肝胆膵移植外科病棟に復帰。今年度2023年10月に人工腎臓部に異動。
- 双子の母親、育児部分休業を取得して勤務時間は8：00～16：00。

現在は血液透析看護業務が中心。徐々に腹膜透析外来や特殊療法看護に業務拡大予定。



Kさんのある1日

08:00	始業 入室前準備、透析回路の組立て
09:00	患者入室開始 透析開始 バイタルサイン測定 看護記録、患者指導など
11:00	昼休憩
13:00	透析終了 午後入室の患者対応 片づけ・清掃など
15:00	カンファレンス、翌日の準備
16:00	終業 (～16：45育児部分休業)

仕事をする上で大切にしていること

様々な看護を提供する中で、どのような場面でも、常に患者さんが安心できるよう一人一人に合わせた声かけや、状況に応じた関わりをするように心がけています。

そのために、患者さんの言葉だけでなく、表情やバイタルサインを注意深く観察したり、前回透析から今回の透析までの記録など電子カルテから情報収集したりしています。

また、安全なケアを提供できるよう確認を怠らず、不安なことやわからないことがあるときは、必ず周りのスタッフに相談するようにしています。

メッセージ

独身の時は病棟勤務でした。夜勤があり、新人看護師の教育担当をしていた時期もあったため、今よりも勤務時間も長く、プライベートで息抜きしつつ仕事に全力を傾け精一杯頑張っていました。

今は結婚し子供も生まれ、仕事中心と言うよりは家庭とのバランスを取り、育児・家事と両立できるよう時短勤務で働いています。

透析室は育児をしながらかでも無理なく仕事をする事ができて、働きやすい環境です。興味のある方は、是非、一緒に透析室で働きましょう。